

猪名川町 子育て支援センター

自主的なグループ活動で親が成長。
猪名川町はゆとりをもって子育てできるまち



子育てに不安や悩みはつきものだが、親御さんにとって最初の難関は、子どもが保育所や幼稚園に入る前の0歳～2、3歳のころだろう。特に初めてのお子さんの場合、親御さん自身が子育て初心者なので不安も大きいはず。昔のような大家族ならば、親や姑があれこれ教えてくれたり、手伝ってくれたりしただろうが、核家族ではそうはいかないことが多い。

そんな、子育て初心者の親を支援してくれる、心強い施設が猪名川町にはある。就園前の親子をサポートする、子育て支援センターだ。所長の井上峯子さんにお話を聞いた。

子育て中の親への支援が必要



「センターの開設は1993年です。そのころ、核家族化・少子化に伴い、子育てに悩む人が増えていて、親を育て、支えなければならないという空気が高まっており、国の方針でもあったのです」

その流れを受けて、センターができ、2001年には建物も新しく作られた。

センターでは、広いプレイルームで「つどいの広場」を開いており、日曜、祝日を除く開設時間中は親子が自由に利用できる。保育士の資格を持つ職員が常に傍で親子を見守り、ときおり言葉をかけたりするので、何か相談などがあればすぐに対応できる体制だ。



プレイルームは、各種子育て講座や、歌や体操など親子で遊べるイベントなども行う場となっている。隣り合った小さめの部屋は託児室で、親だけが聴く講座などの際には託児や見

守りのスペースにもなる。託児には地元の登録ボランティアが協力しており、授乳やおむつ替えもできる。



支援のキーワードは「自主的」

力を入れているのは、親が自主的に活動する「子育てグループ」の育成だ。現在は10～20組の親子が参加する5つの「子育てグループ」があり、それぞれが月2～3回くらいのペースで活動している。活動というのは、みんなで集まって出かけたり、一緒に遊んだり、イベント的なことをしたりすることだ。



はじめに話を聞いた時には「支援センターなのに自主的な活動？」と、ピンと来なかったが、よく話を聞くと、「自主的に動ける力を身につけること」を支援してくれるのだそうだ。センターは、活動内容の相談にのったり、遊びに使う道具を貸し出してくれたりする。

自主的な活動を通して、ひとりひとりがグループの構成員として役割をこなす責任感と、連帯感が生まれる。自分たちで問題を解決する力も身につく。リーダーの資質に目覚める人、コミュニケーション力の高さを自覚する人、絵を描いたりデザインしたり、アートの才能が芽生える人など、自分の能力の再発見につながることも多い。

子育てはこの先もずっと続くもの。長い目で見ると、問題を自分自身で解決できる力は、この先の子育てにも強い味方になるだろう。

使い方は人それぞれ。ふらりと立ち寄れる施設がありがたい

グループ活動が苦手な親御さんなら、グループに入る前段階として、センターの職員が主催する「プレグループ」にとりあえず入る手もある。

「つどいの広場」だけ気軽に利用するのもいいし、単発で催しを利用してもらっても構わない。

センターが中心となって開催する「キッズフェスティバル」のようなイベントや、保健センターの0歳児健診で引換券を配る「絵本プレゼント」、センターで常時行っているおもちゃや子育て用品などの「子育て応援リユース事業」など、参加できる活動はいろいろある。



所長の井上さんに、小さいお子さん連れで移住をお考えの人に向けたメッセージをいただいた。

「先日大阪から移住されたお母さんと赤ちゃんが利用されたときのことです。お母さんが、『大きなまちだとこのような施設の利用にも予約が必要だったりしますが、ここは気が向い

た時にふらりと立ち寄れるのが嬉しいですね』と仰ってくださったのです。ああ、私たちの施設は、受け入れのキャパという意味でとても余裕があるのだなと気がつきました」

重要なポイントだ。なぜなら子育ては待ったなし。必要な時にいつでも利用できる施設が親子にはありがたい。「子育て支援センター」はとても頼りになる存在だ。

キャプション

<220127_114>

親子が自由に利用できる「つどいの広場」を開設したり、講座やグループ活動を行ったりするプレイルーム

<220127_116>

プレイルームの隣の部屋は「託児室」

<220127_111>

所長の井上峯子さん

<220127_134>

親が自主的に活動する「子育てグループ」を育成している

<220127_129>

センターには広い庭もあり、保育所や幼稚園のようだ